

各家庭で雨水タンクを設置しよう

帝塚山中学校 松本 典子

三年前に他界した私の祖母は、生前、大阪城にほど近い自宅で一人暮らしをしていました。祖母は、戦後すぐに小学校の教師となりました。物資の乏しい時代に子供達の教育に携わって来たためか、水や電気や身の回りにあるあらゆるものをとにかく大切に使用していました。その中でも、私の記憶の中に最も鮮明に残っているものが、木々や色とりどりの花々が

茂る庭の片隅に堂々と置かれていた一つの大きなドラム缶でした。そのドラム缶の大きさは、直径が約0.6メートル、高さが約0.9メートルで、容量は約200リットルもありました。

祖母は、雨水を無駄にしないように、雨どいを流れる雨水をそのドラム缶に溜めて、庭の園芸用水や自宅のトイレや玄関先の掃除などの生活用水に使っていました。そして、私に「これは、水道料金を節約するためによ

ているんじゃないよ。水一滴たりとも無駄にしない心がけが、日本を救うんだよ」とよく言っていました。

実際のところ、ドラム缶に溜めた雨水は、飲料水にはできませんし、不純物があつてはお風呂の水にも使用できません。また、雨水を溜めたままにしておくと水中で細菌などが発生してしまいかもかもしれません。それでも、ドラム缶にふたをして、できる限り直射日光を遮断して、苔が生えないように気を配って

長年、自宅で雨水を蓄えていた祖母には、今でも本当に頭が下がる思いです。

最近では、家庭で雨水を有効活用するため、様々な容量やデザインや素材の雨水タンクが幅広い価格帯で販売されています。そもそも、日本は地域によつては、一年を通して降水量が多いところがたくさんあります。時には、ゲリラ豪雨のような局地的な大雨が降つて河川が氾濫し、家屋が流されて大きな被害を受けることもあります。そのため、各家

庭で雨水タンクを水に蓄えて、それをじつくり庭の草花の水やりや掃除に使うことにより、洪水を少しでも緩和できれば、それに越したことはありません。

今では、地方自治体で各家庭での雨水タンク設置の助成金を交付してくれるところもあるようです。雨水タンクの水を使用することで、貴重な上水道の使用量を減少させたり、雨水をできるだけ下水道に流さずに、地下水の保全効果を上げることや河川などへの集中的な流出を抑制するとともに、循環型社会に向けた環境意識の向上を図ることがその主な目的だそうです。

私は、これからの日本社会のあるべき姿はこのような循環型社会であると考えます。個人が損得勘定で行動するのではなく、自分が日本の未来のために、今、何ができるのかを考えて行動するところ大切です。私は、祖母の行動からそのことを学んだのでした。